長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成30年
第16号

長野県保健・疾病対策課　　信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

　ワクワクとドキドキが入り混じる３月。園や学校でも「ひとつ大きくなること」「こんなことしてみたい」と希望や夢が膨らむ季節です。草花や虫たちの「命」も色濃く感じる春を迎えます。

　気持ちの動きに合わせて、日本語ではいろいろな表現が使われます。「わくわく」は嬉しい気持ち、「どきどき」はちょっと不安も混じる気持ち。「そわそわ」は落ち着かない気持ちですが、「そよそよ」になると暖かい風を感じます。このような「副詞」は、その時その場で聞いて使って覚えることば。難聴児さんがちょっと苦手なことばでもあります。「うきうき」「いそいそ」「ひらひら」…。

　心がたくさん動く３月、４月。こんな「様子を表す；副詞」にもたくさん出会える季節ですね。

２月「ファミリーセミナー」 開催

　２月24日（土）　後期第４回目のファミリーセミナーを開催しました。今回は「先輩お母さんのお話」として、立花さんをお招きしました。

　現在小学６年生になるお子さんと歩んできた道のり。新生児聴覚検査での難聴発見から、不安や迷いの日々。病院での相談や家族の支え合いで一歩一歩進んできた「成長の記録と家族の思い」。就園や就学の時に願ったことや、学校の先生方とどのように連携してきたかを具体的なエピソードとともにお話をいただきました。また、小学校最後の参観日で、発表する我が子の姿をビデオで見せていただき、大きく成長した様子を参加者全員で目の当たりにすることができました。

・乳幼児健診で、多くの子どもたちの中どうしても「比べる」気持ちがでてしまうこと
・病院での細かな検査から「難聴の原因について自分を責めなくても良い」と分かったこと
・人工内耳で初めて音が聞こえたときの「耳の誕生日」のこと
・成長とともに「本人と」相談して決めてきた様々な選択や活動への挑戦・・・

　おうちの方からの質問も交え、「成長への見通しと大きな可能性」を見せていただきました。

　最後に今後の「夢」を語りながら、「我が家を選んで生まれてきてくれたことに感謝している」と語る立花さんの笑顔に、あたたかな気持ちと大きな勇気をいただいた時間となりました。

新生児聴覚スクリーニング　実施状況

難聴児支援センターでは、県内の新生児聴覚検査状況の把握に努めております。
中間（4 月から 12 月まで）の実数は以下の通りです。　（現在の報告率 97.6%　；40/41 施設）

対象者数	１２，１１６人
未実施数	１４４人
新スク検査数	１１，９７２人
（確認検査数）	（１９０人）
要再検査数	７１人

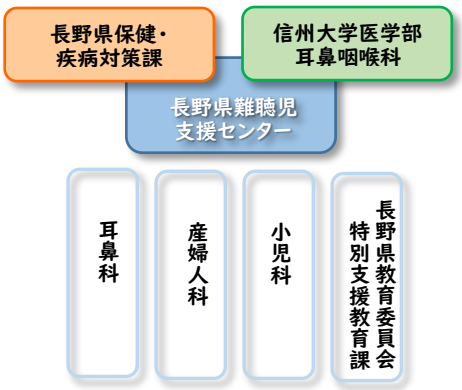
◇実　施　率　　99%

◇新スク要再検査の割合　　0.6%
（1000 人のうち５～6 名が再検査）

99%の方が新生児聴覚スクリーニングを受けています。このうち 71 名（0.6%）が「リファー」となり、さらに詳しい検査をするべく耳鼻科へとつながっています。「リファー」の結果は、2 次検査機関からの報告を集計し、さらに精密検査機関の信大病院との診断結果と合わせて改めてご報告いたします。お忙しい中、検査実施の報告をいただいている各施設の皆様ありがとうございます。

※「1 月～3 月分」のご報告を引き続きよろしくお願い致します

長野県難聴児支援センター運営会議



3 月 13 日（火）　旭町庁舎 2 階信大会議室において、「平成 29 年度第 2 回難聴児支援センター運営会議」が開催されました。

①平成 29 年度 事業活動報告
②難聴児支援に関する医療、保健、福祉、教育の連携について
③平成 30 年度 事業計画案

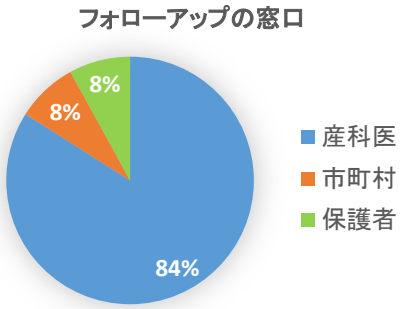
について、報告と意見交換がなされました。

会議の開催に先立ち、難聴児支援センター長の宇佐美教授より「センター開設 10 年の節目。立ち上げにあたっては、何もない所から始めた。現在『医療』と『教育』と『行政』が密に連携しているモデルケースとなっている」とご挨拶をいただきました。

会議では、29 年度新生児聴覚スクリーニング検査の実績や連携支援の実際を報告し、県から新生児聴覚検査事業における市町村の取り組み状況や連携について報告されました。今年度の活動や課題について意見が出され、来年度の具体的な取り組みについてご教示いただくことができました。

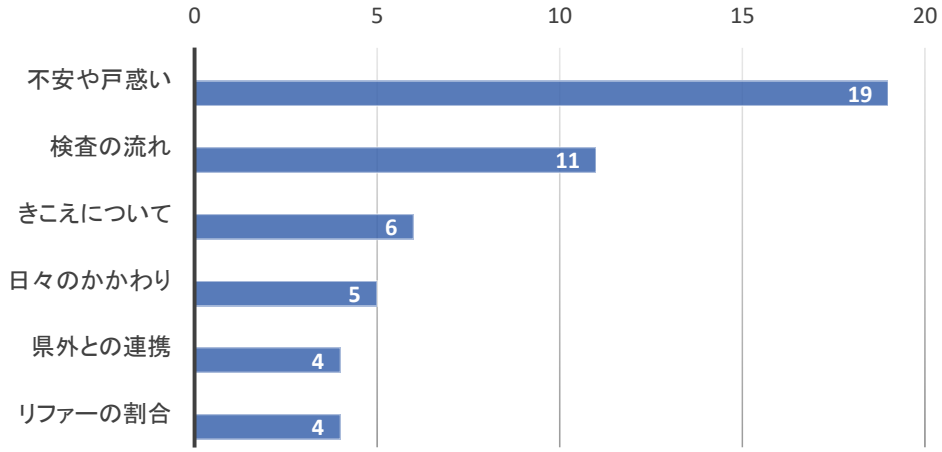
新スク「フォローアップ相談」の記録より

新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、産後間もないときに「きこえの再検査」を伝えられる保護者が 71 名いらっしゃいました。2 次検査の受診までの間、おうちの方々の思いは複雑です。
こうした保護者の方の相談支援として難聴児支援センターでは「フォローアップ相談」を行っています。これまで（2 月末現在）25 件の相談が寄せられました。



お寄せいただく相談は「産婦人科からの紹介」が大半を占めますが、その他、地域の保健師さんから「困っている保護者がいるので相談に乗ってほしい」とご連絡をいただく場合や、保護者の方から直接「ネットで見たので」と、ご相談をいただく場合もあります。

検査結果からの「突然の不安」をかかえているお父さんお母さんが多く、その後の検査の流れや、その間のかかわりについてもご相談をいただいています。



【寄せられた相談より】

・今まで考えたことがなかったので動揺している
・ネットで調べたらいろいろな情報があり不安
・たくさん音の刺激を与えた方がいいのか
・声のかけ方でしなければいけないことはあるか
・一側性なので言語は心配ないと言われるが…
・はっきりとわかるまでどのくらいかかるか
・何カ月ごとに通うのか（育休中のため）
・いずれ他県の自宅に帰ろうと思うが支援はあるか
・新スクでどのくらい「リファー」になるか
・病院で冊子をもらったり、詳しく説明してもらったりしたので今は 2 次検査の結果を待つ　等

「話せる場所があってよかった…」という声をいただき、「聞こえの応援団」がいることをお伝えしています。

「難聴幼児・児童サポートブック」のご紹介

地域の幼稚園保育園・小学校で教える先生方に向けた「難聴幼児・児童のサポートブック」を作成いたしました。難聴の早期発見により、補聴器や人工内耳を通して音声言語を駆使する子どもたちが増えています。

地域の幼保育園・小学校で集団活動や学習をする時に必要な配慮や支援について、「現場の先生方」に向けた冊子です。

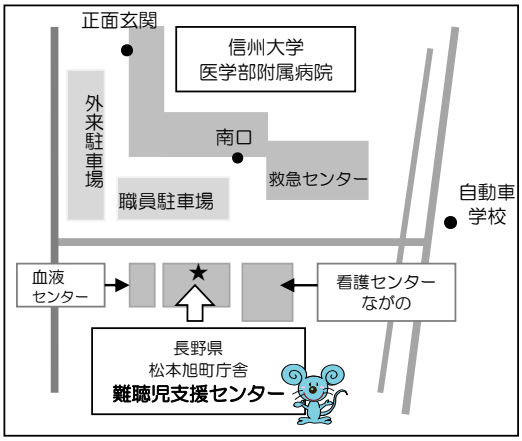
主な内容は…

◇「難聴」のメカニズム
　耳のしくみと聴力レベル
◇「補聴器」と「人工内耳」について
　機器の仕組み
◇難聴児のきこえ方
　集団の中で必要な支援と配慮
◇難聴児にやさしい環境づくり
　日々の活動での具体的な配慮　等

電話相談や訪問相談を通して、地域で難聴児を支える先生方から寄せられるご質問等を基に、「補聴機器を有効に活用するための配慮」「きこえにくい子どもたちの支援」について概略をまとめました。この冊子を活用しながら、それぞれ個々のお子さんの実態に合わせたより具体的な支援について一緒に考えていけたらと思います。

お問い合わせ；
「長野県難聴児支援センター」まで

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588
FAX:0263-34-6589
Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp
住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎２階

療育支援員；丸山秀樹
※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください